



2020年9月10日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学三田メディアセンター（慶應義塾図書館）が 『論語』の伝世最古の写本を公開

慶應義塾大学三田メディアセンター（慶應義塾図書館）は、『論語』の伝世最古写本である『論語疏（ろんごそ）』を、第32回慶應義塾図書館貴重書展示会「古代中世 日本人の読書」（会期：2020年10月7日（水）～10月13日（火）、会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー）において初公開します。

1. 『論語』について

『論語』は中国古代の思想家、儒教の祖として知られる孔子（紀元前552、あるいは551～479）の言行や高弟たちとの対話を元に、その死後に門人たちが編纂したと推定される書物です。『古事記』『日本書紀』によれば、日本へ初めて伝わったのは応神天皇の第16年とされています。古代・中世においては公家・武家における教養の基本書として精読され、江戸時代になると一般人士にまで読まれるようになり、その後現代にいたるまで、多くの人に読み継がれています。今回公開する『論語疏』は巻六のみが伝存し、慶應義塾大学の研究グループの分析により、奈良～平安時代よりもさらに古く、日本国外で写された『論語』の伝世最古の写本（出土資料を除く）と考えられることがわかりました。

2. 『論語疏』の注目点

『論語』は、儒教の基本的な理念を伝えるものであることから、基本書として注釈書も多く作られました。今回公開する『論語疏』もその一つです。『論語疏』は正式には『論語義疏（ろんごぎそ）』と称され、中国六朝時代の学者として知られる梁の皇侃（おうがん）（488～545）の手による論語の注釈書で、魏の何晏（かあん）による『論語集解（ろんごしつかい）』を標準とし、六朝時代におけるその解釈を集めた書籍です。『論語義疏』はその後中国国内では散佚し、伝来した日本にのみ現存している「佚存書（いつぞんしょ）」として広く知られています。

今回公開する『論語疏』の注目点は以下の3点です。

①中国で写された伝世最古写本（出土資料を除く）の論語であると考えられる

本書に記された文字の字体字様を詳細に比較検討した結果、本書は遣隋使、遣唐使によってもたらされた、隋以前の中国写本であると推定されます。まとまった紙の写本としては、仏典以外では現存最古級のものです。

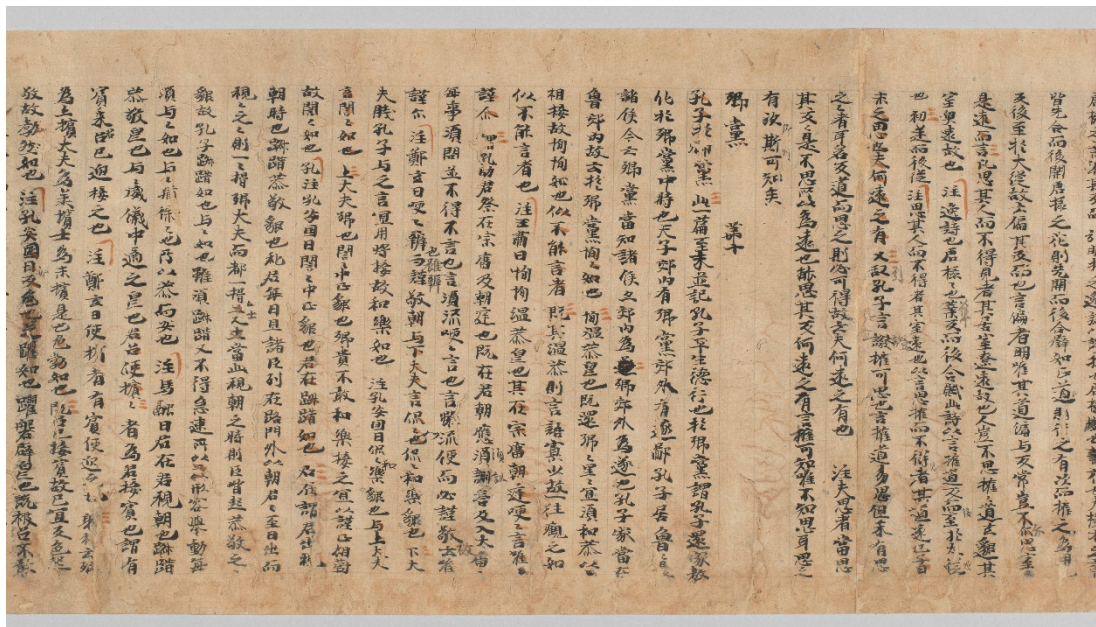
②古代以来日本で長く伝わってきた

①で指摘したように、本書は平安時代以前に日本にもたらされてから、日本国内に長く伝来してきました。古代の藤原氏印が見られ、中世の所蔵者は不明であるものの、江戸時代に入ると朝廷の庶務や公文書を管掌する壬生家（みぶけ）に収蔵されていたことが、藤原貞幹（さだもと）の『好古雑記（こうござっき）』に記載されています。

③幕末以降所在不明であった資料が発見された

長らく所在不明であった本書が近年発見され、慶應義塾図書館が所蔵することとなりました。学内で書誌学、中国文学、国文学、日本史学などの各分野の研究者からなるチームが編成され、2018年度より研究を進めています。本書は、現在の中国思想史および日本漢学の学説に新たな議論を呼び起こし、研究を進展させる論拠となる可能性を大きく秘めている資料といえるでしょう。

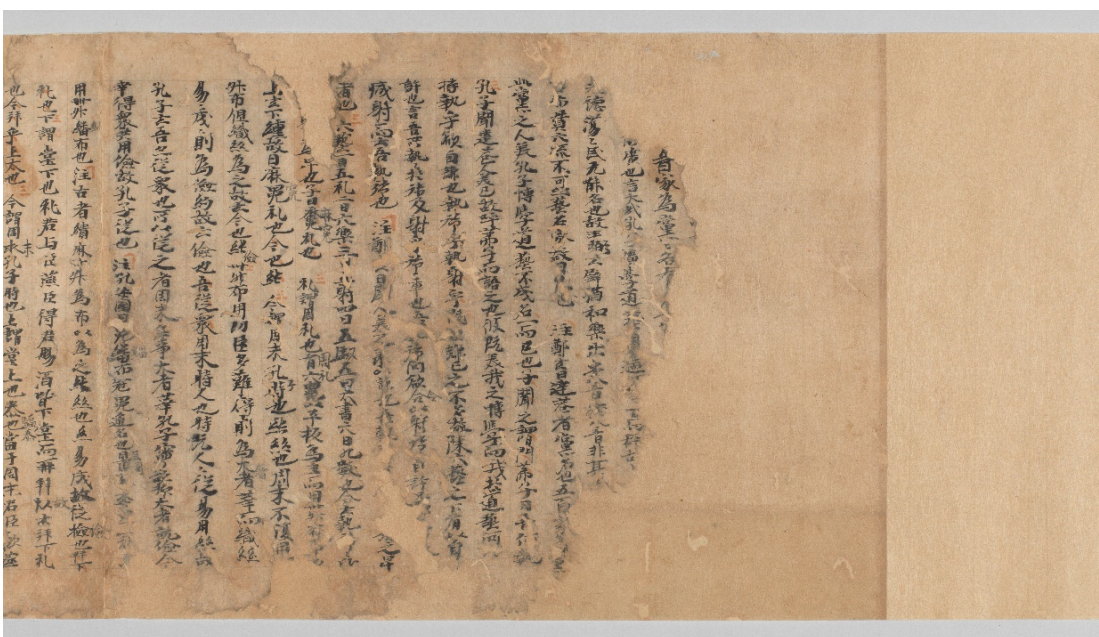
<論語疏 郷党篇（きょうとうへん）首>



<論語疏 卷6末>



<論語疏 卷6第1紙>



3. 展示会の概要

慶應義塾大学三田メディアセンター（慶應義塾図書館）では、1985年以來、丸善株式会社（現・丸善雄松堂株式会社）の協賛のもと、丸善店舗ギャラリーを会場として、貴重書展示会を開催してまいりました。本展示会は、慶應義塾図書館が所蔵する貴重書・稀観書を学外の会場に出品することにより、学内関係者だけでなく、広く一般の方々にもご覧いただける機会となっています。第32回目を迎える今回は「古代中世 日本人の読書」をテーマとして、慶應義塾図書館が所蔵

する漢籍コレクションから選りすぐりの資料を展示公開します。本リリースでご紹介する『論語疏』は、本展示会の中心となる資料として、初公開されます。

第32回慶應義塾図書館貴重書展示会「古代中世 日本人の読書」

会期：2020年10月7日（水）～10月13日（火）
会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー（入場無料）
時間：9:00～21:00 最終日16:00閉場
主催：慶應義塾図書館
協賛：丸善雄松堂株式会社

展示内容紹介：

古代・中世の日本では、読書の対象となったのは主として中国伝来の書物「漢籍」だった。日本人はこの難解な書物をどのように学習し、また、どのように活用したのか。古代から中世にいたる読書の様相を慶應義塾図書館の蔵書でたどる。

ギャラリートーク：

10月9日（金）18時～／10月11日（日）15時～
講師：慶應義塾大学名誉教授 佐藤 道生（本展示会監修者）
~~※状況に応じて人数制限を設ける場合があります。~~
※各回20名までの事前申し込み制（先着順）

慶應義塾図書館貴重書展示会（ウェブサイト）

https://libguides.lib.keio.ac.jp/mit_annual_exhibition

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社文化部等に送信させていただいております。

本リリースのお問い合わせ先

慶應義塾広報室（安延）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

Email：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>